

教会学校 教案ガイド

教師メモやメッセージアウトラインを読む前に必ずディボーションをしましょう。

1. みことば

祈りながら今週のテキスト(聖書箇所)を何度も繰り返し読んでください。また、今週の暗唱聖句を決定して、覚えましょう。

2. 主題の読み取り

今週のみことばの中心テーマを自分のコトバで、1つの文章にまとめて書きあらわしましょう。

例 ○: イエスさまは、弟子たちがイエスさまを救い主と信じるようにカナで奇跡を行いました。(×: カナの婚礼と奇跡)

3. 教えられたこと

今週のみことばを通して、神さまがあなたに語ってくださったことを書きあらわしましょう。

4. メッセージの作成

◇「教師ノート」と「メッセージアウトライン」を参考にしてください。

◇注意深く聖霊さまの導きに従いましょう。

教会教育部公式サイト <http://ce.ag-j.or.jp/>

教会の働きのためにご自由にお使いください。営利目的での使用は禁じます。すべての内容の著作権は、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団教会教育部にあります。

教 師 ノ ー ト

日付	2013年12月 8日
単元	クリスマス
テーマ	預言の成就・インマヌエル
タイトル	神さまはともにおられます
テキスト	イザヤ7:14
参照箇所	イザヤ7章、9章、マタイ1章、28章
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	マタイ1:23
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	

□導入

例:どんなに偉い人でも、誕生日が祝われるのは、普通生きている間だけです。亡くなっている人の誕生日会ってしないよね。クリスマスはイエスさまの誕生日です。約2000年も前に誕生したイエスさまの誕生日は、毎年毎年世界中でお祝いされます! どうして? それは、イエスさまは今も生きているからなんですよ。すごいよね!

□ポイント1 イザヤは救い主が生まれることを預言しました。

今から2700年ぐらい前のイスラエルにイザヤという預言者がいました。預言者というのは、神さまの言葉を預かって(聞いて)人々に伝える働きをする人です。預言者のイザヤは、イエスさまが生まれる700年ぐらい前の人です。そのイザヤによって700年ぐらいも前に、救い主(イエスさま)が生まれることを預言していたのです!

例:今から700年ぐらい前というと日本では鎌倉時代です。お侍さんが強かった時代です。その頃の人々が21世紀の日本の社会を見たらきっと驚くでしょう。飛行機やロケット、電話、テレビなど、想像も出来ないでしょうね。預言者イザヤはイエスさまが生まれる700年ぐらい前の人ですが、救い主がどのようにして生まれるのか、そして救い主の生涯について(イザヤ53章)も神さまから預かった(聞いた)言葉を伝えていたのです。神さまは永遠のお方なので、過去・現在・未来のことを全て知っておられるのです。

□ポイント2 イザヤの預言は成就しました。

今年は西暦何年でしょう? そう2010年ですね。実は、イエス様は今から2010年前に生まれました。イエスさまが生まれてから1年2年と数えて今年が2010年なのです。イエスさまはイザヤの預言の通りに生まれました。神さまの言葉は、必ず実現(成就)します。神さまは真実なお方ですから、約束したことを破られるようなお方ではありません。

例:今年は阪神タイガース(その年に優勝した球団で)が優勝しましたね! 毎年野球の評論家がどのチームが優勝するのかを予想しますが、当たることもあれば外れることもあります。人間がする「予想」というのは、とつてもあやふやです。またテレビで占い師が登場していろいろなことを言い当てたりしています。よく当たる占い師もいるようですが、当たらないこともたくさんあります。聖書は占いをすることを禁じますし、神さまは喜ばれません。聖書の預言は、当たるか当たらないか分からない占い師のする「予言」ではありません。星座や血液型、風水で相性が良いとか悪いとかということが大切なものではありません。大切なことは、力があり、必ず実現していく神さまの言葉(預言・聖書の言葉)を信じていくことです。

□ポイント3 イエスさまは私たちとともにおられます。

イザヤは救い主が「インマヌエル」と呼ばれるという預言をしました。「インマヌエル」とは、「神さまは私たちとともにいる」という意味です。もちろん救い主には、「イエス」という名前がつけられました。救い主の名前は「イエス」ですが、その救い主は私たちとともにおられるということなのです。イエスさまは、イエスさまを信じる私たちと今も一緒におられます。そしてイエスさまは、どんな時も何があっても、これからも、いつまでもイエスさまを信じる私たちと一緒にいて下さるのです！（マタイ28:20参照）

例:「インマヌエル」を実感した教師の体験を語ると良いでしょう。

先生は小学生の時とっても恐がりでした。怖い夢を見たりすると、幽霊が出るんじゃないかと夜中にトイレに行くのも恐かったんです。でも「♪主がついてれば恐くはないと、聖書の中に書いてあります♪」という賛美を覚えて、時々その賛美を思い出しながら「そうだイエスさまと一緒にいるから大丈夫だ」と信じていくと、だんだん恐がり直ってきたんです！

□結論 イエスさまは、昔話に出てくる人ではありません。信じる私たちといつまでもともにいて下さる神さまで。 暗唱聖句を読み上げます

□適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

イエスさまは、約 2000 年前のユダヤの国に生きて、今はもういなくなってしまった過去の人ではありません。今も信じる私たちとともにいて下さる神さまで。さびしい時も、うれしい時も、どんな時でもいつまでも一緒にいてくださる神さまで。

(1) 私たちとともにいて下さる救い主・イエスさまを与えて下さった神さまに感謝をささげましょう。

(2) 私たちの友だちに「ひとりぼっちじゃないよ。イエスさまがいるんだよ。クリスマスは僕たちのためにイエスさまが生まれた日なんだよ」と伝えましょう！

教師ノート

日付	2013年12月15日
単元	クリスマス
テーマ	従順
タイトル	恐れを乗り越えたヨセフ
テキスト	マタイ1:18-25
参照箇所	イザヤ7:14
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	マタイ1:20
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	中1巻1題13課
□導入	<p>結婚をする前、婚約中の男の人と女の人って、ラブラブな雰囲気があります。またクリスマスが近づいてきましたが、クリスマスって楽しくてにぎやかなイメージがあるよね。でもね、世界で最初のクリスマスを迎える前に、もうすぐ結婚するヨセフの心には、心配ごとや不安なことがありました。どんなことが起ったのでしょうか？</p>
□ポイント1 ヨセフは結婚をとりやめようとした(18-19節)	<p>ヨセフとマリヤは婚約中で、やがて結婚をするということが決まっていた。しかしヨセフと結婚をする前に、マリヤに赤ちゃんがみごもっていることが分かったのです。ヨセフはどうしてマリヤが身ごもったのか分かりませんでした。ヨセフはマリヤを当時の律法にしたがって訴えることができたのですが(申命記22:22-24によると死刑)、そうはしませんでした。ヨセフはマリヤがみんなのさらし者にならないように、密かに結婚をやめようとしたのです。</p> <p>例)人生には「3つの坂」があると言われています。1つは何でも順調にしているというような「登り坂」、2つ目は失敗をしたりうまくいかなかったりというような「下り坂」があります。もう1つの坂は、「まさか！」という坂だそうです。自分が失敗したり間違っただけでもないのに、「まさかこんなことになるなんて」と思わずにはおれない「まさか」です。ヨセフは、マリヤと結婚することを楽しみにしながら登り坂をラブラブな気持ちで登っている気持ちだったと思います。しかしヨセフが何か間違いをおかしたわけでもなく、「まさかマリヤに誰の子どもか分からない赤ちゃんが・・・」そんな気持ちだったのでしょう。</p>
□ポイント2 ヨセフに主の使いがあらわれました(20-23節)	<p>「まさか自分にこんなことがおこるなんて・・・」悩んで恐れているヨセフに、主の使いが夢に現れました。そして主の使いは、「ダビデの子ヨセフ、恐れなくてマリヤを妻として迎えなさい。マリヤのお腹の中にいる子どもは、聖霊なる神さまによって宿っているのです。マリヤが産む男の子をイエスと名付けなさい。この方こそ全ての人を罪から救う救い主です」と言いました。恐れて悩んでいたヨセフを主の使いは励ましたのです。</p> <p>⇒「まさかこんなことがおこるなんて・・・」、自分の理解を越えたことが起こり恐れてしまって、どうしたら良いのか分からなくなってしまうことがあります。そんな時、ヨセフは主の使いによって励まされました。私たちの神さまは、恐れて悩んでいる私たちを励まして下さる神さまです。ある人は聖書の中に「恐れるな」という言葉が365回出てくると言っていました。つまり私たちは毎日毎日「恐れるな」という神さまの励ましの声を聞き続けていく必要があります。聖書に出てくる人物も何度も何度も「恐れるな」と励まされています。イエスさまも「恐れるな」と弟子たちに言われています。</p>

悩んだり心配することもあるでしょう。「あなたの重荷を主にゆだねよ。主は、あなたのことを心配してくださる」(詩篇55:22)と聖書に書かれています。心配は私たちがすることではなく、神さまがしてくださることです。神さまが心配して下さるから大丈夫という信仰を持ちましょう。聖書の中に「恐れるな」「思い煩うな」「心配するな」という言葉に注意しながら読んでみると、それだけ神さまが私たちを励まそうとして下さっているのがよく分かります。

例)19世紀、イギリスにジョージ・ムーラーというすばらしいクリスチャンがいました。彼は親を失い、家族から見捨てられた数千人の孤児達を、分け隔てなく受け入れ、彼らを心から愛し、彼らの父となって養い育てました。何度も何度も子どもたちに食べさせるものがないという事態に遭遇しました。周りの人たちは心配してどうしたらいいだろうかとあたふたしていましたが、その度にムーラーは神さまにお祈りをしました。すると神さまは何度も何度も不思議な方法で子どもたちの食べる物を与えて下さったのです。食事の5分前になっても何も食べる物がない時もありましたが、馬車が食べ物を積んでやってきて助かったこともありました。ムーラーは、「信仰が大きくなれば心配は小さくなり、信仰が小さくなれば心配は大きくなる」と言いました。

□ポイント3 ヨセフはマリヤを妻に迎えました(24-25)

ヨセフは主の使いが言われたことを単なる夢だと思わずに、神さまからの励ましの言葉だと信じてマリヤを妻として迎えました。そして生まれてきた子どもの名前を主の使いが言った通りにイエスと名づけました。

⇒毎週の教会でのお話し、聖書を読んでいて心にとまった言葉を、右の耳から左の耳に流してしまうことなく、神さまからの励ましの言葉だと信じてその通りに実践していくことが大切です。周りの人の目や気になることもあるでしょう。疑いがわいてくるかもしれません。人の言葉や疑いばかりを気にしていたら、私たちの心の中にある恐れはいよいよ大きくなっていきます。恐れを乗り越えるために、神さまの言葉を信じていくことが大切です。神さまの言葉には大きな力があります！

⇒今まで教師自身が聖書の言葉で励まされた体験を語っても良いでしょう。あるいは子どもたちに聖書の言葉で励まされた体験があるかどうかを聞いてみるのも良いでしょう。

□結論 恐れて心配していたヨセフは、主の使いの語る神さまの言葉を信じて従いました。

暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

もうすぐにぎやかなクリスマスなのに、悩んだり心配したり恐れていることはありませんか？

(1) 私たちが恐れて心配していることに対して、神さまはどう思っているのでしょうか？聖書はどう教えているのでしょうか？神さまに祈って教えてもらいましょう。(分からないときは、先生にたずねてみてね)

(2) そして神さまの言葉に従っていく決心をしましょう。(聖霊なる神さまは、従う力を与えてくれます)

教師ノート

日付	2013年12月22日
単元	クリスマス
テーマ	神の愛
タイトル	神さまからのプレゼント
テキスト	ヨハネ3:16
参照箇所	Iヨハネ4:9-11
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	ヨハネ3:16
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	小上2巻4題11課 、 中3巻3題13課
メモ(情報・例話など)	<p>「クリスマス」という言葉は、どんな意味か知っていますか?「クリスマス」は、「キリスト」と「ミサ」という言葉からできました。「キリスト」は「救い主」っていう意味で、「ミサ」は「礼拝」っていう意味があるんだよ。つまり「クリスマス」は、「キリスト(救い主)を礼拝する」っていう意味なんです。</p>
□導入 興味を起す質問をしましょう。	<p>クリスマスと聞いて、どんなものを思い浮かべますか?そう、クリスマスツリー。クリスマスケーキも食べたいよね。そしてクリスマスプレゼントをもらえるって嬉しいよね!(え、良い子にしていたらサンタさんがくれる?)実はねえ、神さまは私たちにプレゼントを与えてくれているんだよ~。そのプレゼントって何だろう?</p>
□ポイント1 イエスさまが私たちへのプレゼントです	<p>「神は、実に、そのひとり子をお与えになった」と聖書に書かれています。イエスさまは、父なる神さまのひとり子なんだよ。神さまは大切なひとり子であるイエスさまを私たちに与えて下さったのです。神の子であるイエスさまが人の子として生まれて下さったのは、神さまから私たちへの最高のプレゼントなのです。</p> <p>例)プレゼントをもらおうと嬉しいよね。プレゼントを渡す側の気持ちは、どうでも良いものをプレゼントをするんじゃないで、相手が喜んでくれるもの、素敵なもの、大切なものをプレゼントします。父なる神さまが私たちにイエスさまをプレゼントして下さった時の気持ちって、どんな気持ちだったかな?</p>
□ポイント2 神さまは、だれ一人として滅んでほしくありません。	<p>神さまがイエスさまをプレゼントして下さったのは、「世を愛された」からだ聖書に書いています。「世」ってなんでしょう?そうこの世界のことです。そしてこの世界ということは、私たち一人一人のことなのです。この世、そして人々は父なる神さまを信じないで神さまから離れて生きています。それを罪と言います。神さまを信じないままだと私たちは滅んでしまうこととなります。私たちが造られた神さまは私たちが愛しているから、だれ一人として滅んで欲しくないのです。だれ一人としてです。だからイエスさまを私たちに救い主としてプレゼントしてくれたのです。</p> <p>⇒「良い人は滅んで欲しくないけれど、悪い人は滅んでも良い」と神さまは思っています。「だれ一人として」滅んでほしくないのです。「わたしは悪者の死を喜ぶだろうか。——神である主の御告げ。——彼がその態度を悔い改めて、生きることを喜ばないだろうか」(エゼキエル18:23)。イエスさまも「人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです」(ルカ19:10)とされています。</p>

□ポイント3 イエスさまを信じる人は、永遠のいのちをもつことができます。

神さまを信じないで神さまから離れている人々を救うためにイエスさまは十字架にかかけられました。神さまがイエスさまをプレゼントしてくれた目的は、私たちが罪から救うためです。イエスさまを救い主として信じる人は、ひとりも滅びません。「イエスさまを信じて失敗したなあ。イエスさまに裏切られたなあ」と言いながら一生を終える人はひとりもいません。「イエスさまを信じて良かった。たとえ死んでもイエスさまに会うことができる。イエスさま感謝します」と永遠のいのちを与えられて喜んで生きることができます。

例)ある人が深い穴の中に落ちてしまったという夢を見ました。深くて自分では上がることができません。「誰か助けて～」と叫びました。するとそこになんとお釈迦さんが通りかかったそうです。「助けて～」と叫ぶとお釈迦さんは「悟りなさい」と言って通り過ぎたようです。しばらくして次に孔子さん(儒教という教えを広めた人)が通りかかりました。穴の中に落ちた人は「助けて～」と叫ぶと、孔子さんは「だから穴に落ちないように気をつけなさいと言ったではないか」と言って通り過ぎたようです。するとしばらくして今度はイエスさまがやってきたそうです。「助けて～」と叫ぶと、イエスさまは穴の中に入ってきてくれて、イエスさまの肩に自分を乗せてくれて穴の外へ出してくれ助けてくれたそうです。

これはある人の夢の中のお話ですが(他宗教批判にならないように注意する必要があります)、私たちの父なる神さまは天のどこか遠いところにいて、「こうしなさい」「あーしてはだめ」と言われているお方ではなく、私たちが滅びてしまわないように、私たちが救うために、ひとり子のイエスさまを私たちに送ってくださったのです。それは私たち一人一人を愛しているからです。そして神さまからのプレゼントであるイエスさまを救い主として信じる時、私たちは救われて永遠のいのちを持つことができます。

□結論 神さまは、私たち1人1人を愛し、滅んでほしくないから、イエスさまを私たちに与えてくれました。

暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

- ①ヨハネ3:16の「世」というところに自分の名前を入れて何度か静かに読んでみましょう。神さまは、あなたを愛しています。
- ②神さまは私たちにイエスさまをプレゼントしてくれました。このイエスさまを信じる人は、罪や滅びから救われ、永遠のいのちをもつことができます。イエスさまを信じませんか？
- ③「世」というところに、今度は私たちの家族や友だちの名前を入れて読んでみましょう。神さまはみんなの家族や友だちのことも愛してイエスさまを送られました。イエスさまを信じる人は、神さまの愛が与えられます。私たちも神さまの愛で家族や友だちを愛しましょう。

* 子どもたちがイエスさまを信じる決心、信じ続けていく決心ができるように、祈りつつ備えましょう。

教 師 ノ ー ト

日付	2013年12月29日
単元	クリスマス(年末感謝)
テーマ	賛美と感謝
タイトル	賛美と感謝
テキスト	マタイ15:29-39
参照箇所	
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	詩篇103:2
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	

□導入

先週は一緒にクリスマスをお祝いすることができました！今日は、今年最後の日曜日です。1年間を振り返っていきましょう。この1年間、みんなが「嬉しいなあ」と思うことを5つあげて、ワークブックに書いてみよう。そして「このことはちょっと残念だったなあ。嫌だったなあ」と思うことも3つぐらいワークブックに書いてみよう。

□ポイント1 人々はイエスさまがして下さったことを見て、神さまを賛美しました(29-31節)

ガリラヤ湖を見下ろせる山の上でイエスさまが座っていると、たくさんの人たちがイエスさまのところへ体の不自由な人や病気の人を連れてきました。イエスさまは連れてこられた体の不自由な人や病気の人を癒されました。話せなかった人が話せるようになり、足の不自由な人も元気に歩けるようになり、目の見えなかった人が見えるようになったのです！多くの人々は、イエスさまがいやされた奇跡を見て神さまを賛美しました。

⇒今年1年間、「これは神さまがして下さったことだなあ」と思うことがあるでしょう。さっきワークブックに書いた「嬉しいなあ」と思うことを与えて下さったのは神さまです。目には見えないけれど神さまは確かに生きておられ私たちのために働いて下さっていました。〇〇君には神さまはお休みしていたってことはありません。私たちの神さまは眠ることもなく、まどろむ(ねむくなる)こともなく、今年1年間も私たちを守って下さっていました(詩篇121:4)。神さまがして下さった感謝を数えて、神さまに賛美をささげましょう！

□ポイント2 イエスさまは人々をかわいそうに思いました(32-34節)。

多くの人々がイエスさまと3日間も一緒にいましたが、山の上なので食べる物がなくなってしまったようです。イエスさまはみんなのお腹がすいている様子に気づいてかわいそうに思われました。弟子たちに話しをすると、弟子たちは「こんなへんぴなところで、こんなに大勢の人に食べさせるパンはありません」と言いました。イエスさまが尋ねると、そこには7つのパンと少しの魚があっただけでした。

⇒イエスさまは「かわいそうに」と思って下さるお方です。私たちが自分でどうにも出来なくて困っていること、悩んでいること、失敗してしまったこと、辛かったこと、そういうことに対して「どうして出来ないんだ。だから駄目なんだ」と言わずに、「かわいそうに」と思って下さる優しいお方です。

□ポイント3 イエスさまは、7つのパンと少しの魚を感謝してさきました(35-39節)

イエスさまは群衆をその場に座らせました。そして7つのパンと少しの魚をとって感謝をしてさきました。そして弟子たちに手渡すと、弟子たちはそれらを入るに配り始めました。するとそこには男の人だけで4000人ぐらいいたのですが(女の人と子どもを入ると1万人ぐらいいたかもしれません)、不思議な

ことにみんなは弟子たちが分けるパンと魚を食べてお腹がいっぱいになったのです。そしてパン切れのあまりを集めてみると7つのかごにいっぱいになりました。

質問: どうして男の人だけで4000人もいたのに、7つのパンと少しの魚でみんながお腹いっぱいになったと思いますか？

⇒イエスさまが感謝をささげて分けてくれたから
「7つのパンと少しの魚しかない」ではなく、「7つのパンと少しの魚がある」と今与えられているものに目をとめて神さまに感謝を捧げていく時、神さまは素晴らしいことをして下さいます。

□結論 イエスさまがしてくださったことを喜び賛美してほめたたえましょう。また「嫌だなあ」と思うことの中にも少しの感謝でも探していきましょう。

暗唱聖句を読み上げます

□適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

- (1) 今年1年間もいろいろあったと思います。ワークブックに書いた「嬉しかったこと」を与えて下さったのは神さまです！それらひとつひとつを与えて下さった神さまをほめたたえましょう。
- (2) 今年1年間の中で「残念だなあ。嫌だったなあ」と思うことがあるかもしれません。イエスさまもそのことを「かわいそうに」と心配して下さいます。イエスさまは私たちの悲しみをほおっておけない憐れみ深いお方です。
- (3) 今年1年間の中で「残念、嫌だなあ」と思うことの中に、「7つのパンと少しの魚」のようにその時は不十分に見えても、少しだけ感謝できることはありませんか？その小さな感謝を探し出して神さまに感謝していくと、「嫌だなあ」と思うことをイエスさまは「感謝だなあ」と言えることに変えてくれます。